

民に與へ居る乎を觀察するに、實に虎を變じて駱駝に化するに似たるもの有り。蒙古の歴史を繙かば、直に蒙古人の猛悍兇暴、殺伐殘忍なる民族なりしに一驚を喫するなるべし。彼の元朝の始祖、成吉思汗が、一たび此の種族を率ゐて、西方を侵略するや、彼等の向ふ所、悉く屍山血河の慘狀を極めざるは無く、其の殘忍兇暴、實に言語に絶へたるものありしに非らずや。

然るに彼等一旦喇嘛教に歸依するや、其の殺伐殘忍の氣風は、漸く消磨し去りて當年の猛氣復た見るべからず。寔に柔順無氣力の性に化したり。往昔は旅客を發見すれば、直に之を殺戮し、其の貨物を掠奪したる種族なりしも、今は飢渴者を見れば、進んで飲食を與ふる慈善者と爲れり。又喇嘛教は、中央亞細亞の各種族をして交通平和を得せしむるの媒介者と爲れり。蒙古、西藏の各種は、古來干戈相見ゆるのみにて、曾て交通貿易を爲すの機會を得ざりしも、喇嘛教一たび傳播し、彼等之に歸依してより、彼等は同一の救主を戴き、同一の信仰を懷くが故に常に相交りて有無共通の民族と爲れり。戰を知つて平和を知らざりし蒙古族の心裏に、斯る感化を與へたるは、實に大乘佛教の一派たる、喇嘛教の力と謂はざるを得ず。